

唯一の神の現れ方

喉の奥には特別な弁があつて空気を吸う時は肺に送り、食べ物、飲み物は胃に送りように自動的に分けるようになっています。神様は私たちの体を繊細に創ってくださいました。ヘブル語で創造主なる神様はヨド・ヘ・ヴァヴ・への聖四文字で記されています。日本のキリスト教会で使われており聖書では聖四文字はゴシック体で主と訳され、聖書学者の研究によると「ヤハウエ」と発音します。ユダヤ人は妄りに神の名を唱えてはならないとの十戒に基づき、その個所はアドナイと発音します。日本語で明朝体で主としているヘブル語のアドナイは御主人の意味で、人間の主人の場合にも使用されます。しかし、一般的に何故唯一の神様がゴシック体の主と明朝体の主に区別されているかと言うと、聖書の原本が聖四文字とアドナイに区別されているからです。ゴシック体は三位一体の神をあらわし、アドナイは同じ神様が御主人という形で現れるときに使われています。口から入って来る物を喉の奥にある弁が自動的に入る場所を判断して送るように、神様は私たちの人生の一コマ一コマ、私たちが生きる上で一番大事な時に、私たちが命を保つために一番相応しいお方として現れて、私たちが罪と滅びより救いだし永遠の生命に与らせてくださいます。

※ 三位一体 「ただひとり」とか「一つ」と言うヘブライ語は、「エハド」を用います

この語は単一個体だけでなく、複合的な統一体をも意味します。たとえば創世 2:24 において、アダムとエバは「エハド」つまり「一体」です。また民数 13:23 の「一房」は「エハド」であり、一つの枝に結実した多数のぶどうの粒の集まりに用いられています。したがって、神が「エハド」（ただ一人）であると言う意味は、父も子も聖霊も性質において同一であり、統一がとれていて、意志がいつも貫かれていることを意味します。「父・御子・聖霊」の働きはいつも愛においても、聖なることにおいても、義なることにおいても、同じ働きをもって現れると言うことです。（ウイリアム・ウッド著「エホバの証人」の教えと聖書の教え）いのちのことば社 114 頁）。